

「認知症」って なあに？①



地域包括支援センターでは、たとえ認知症になっても安心して暮らせるようアドバイスを行っています。
早い段階からの適切な診断と対応、認知症に関する正しい知識と本人や家族への支援体制を、総合的かつ継続的に確立していくことを目指しています。

今回から、「認知症」についてシリーズで掲載していきます。

「認知症？」

それとも「もの忘れ？」

年齢とともに誰でも物忘れをしやすくなります。そして「認知症が始まったのでは？」と心配になるものですが、単なるもの忘れは認知症ではありません。

認知症になると、初期では、数日前のことが思い出せ

なくなりません。やがて数分前

にあつたことも忘れるようになります。一方で、昔の出来

事や仕事で覚えた専門知識な

どはよく覚えていたりします。ある時、記憶のすべてが

なくなってしまうのではなく、まず、新しい記憶から失

われていくのです。

「あれ？」と思う症状があ

れば、早めに専門の医師の診

察を受けてみるのが大切です。

認知症になると脳の機能が

低下していくため、物事を覚えていられなくなり、日時や

居場所などがわからなくなる

認知症状(※1)が表れます。

これに対し、妄想や徘徊な

が開始する原因は、ケア環境やその人の生い立ち、職歴などが大きく影響します。そのため、周囲の適切な接しかたと治療で、症状を抑制し改善することが可能です。また、早期診断により発見することで、薬による治療もできることから進行を遅らせることが可能です。

【生活習慣病も大きなリスク】
肥満などの生活習慣病(※3)により、認知症になるリスクが高いことから追跡調査が世界各地で行われていきます。近年、内臓脂肪や動脈硬化がもともになる生活習慣病が大きなリスクであることが分

かり始めてきました。

(※1)

認知症状「中核症状」とは？

記憶障害、見当識障害など

(※2)

行動・心理症状「周辺症状」とは？

妄想、徘徊、焦燥など

(※3)

生活習慣病とは？

食生活や運動習慣、休養、喫煙飲酒などの生活習慣に

よって引き起こされる病気の総称です。生活習慣病に関連する病気として、がん、心臓病、脳卒中、糖尿病、高血圧、高脂血症などの病気が挙げられます。

【認知症による物忘れ】

① 体験した全体を忘れる。

② だんだん進行する。

③ 判断力の低下などが加わる。

④ 忘れたことを自覚しなくなる。

⑤ 日常生活に支障を来す。

【老化に伴うもの忘れ】

① 体験したことの一部を忘れる。

② 大きく進行することはない。

③ 判断力の低下などは起こらない。

④ 忘れやすいことを自覚している。

⑤ 日常生活にほぼ差し支えない。

◎ 問い合わせ先

長島町地域包括支援センター

☎ (86) 1153 「直通」